

家系研究協議会 (家研協)



第 91 号

2025 年 令和 7 歳乙巳 如月 (2 月 23 日)

乙巳年といえば・・・

今年令和 7 年 (2025) は乙巳の年にあたります。乙巳と言えは「乙巳の変」が有名ですね。蘇我入鹿が中大兄皇子 (後の天智天皇) 等に討たれた政変のことですが、歴史をあまり知らない人が、この事件のことを「大化の改新」だと思っている方が多いのには少し驚いてしまいます。

因みに、大化の改新とは蘇我氏宗家が滅亡した後に、新たに天皇になった孝徳天皇のもとに実施された政策全般のことを言いますが、中大兄皇子が関与したという記述はなく、中大兄皇子は主に政敵となった人たちの討伐ばかりしていたイメージです。

ところで、この「大兄皇子」という称号ですが、色々な本やネットでの情報を見ると、「王位継承候補者で、同母兄弟間の長子ないしそれに準じる者に与えられる称号」と言われています。実際に大兄皇子を名乗った例として、継体天皇の子勾大兄皇子 (後の安閑天皇)、欽明天皇の子箭田珠勝大兄皇子、同じく大兄皇子 (後の用明天皇)、敏達天皇の子押坂彦人大兄皇子、聖徳太子と言われた厩戸皇子の子山背大兄皇子、舒明天皇の子古人大兄皇子と中大兄皇子の 7 名のみです。

私はこの「大兄皇子」というのは、「同母兄弟間の長子ないしそれに準じる者」というややこしい説明は不要で、今でいう「皇太子」のことではないかと考えます。

継体天皇の後、安閑天皇、宣化天皇、欽明天皇と続きますが、史実は分かりませんが、欽明天皇が兄弟たちと争って皇位を取ったという説があり、安閑天皇の後、正式な皇太子の任命がなかったと想像します。また箭田珠勝大兄皇子は皇太子となったものの、父親の欽明天皇より早く亡くなり、同母の敏達天皇が皇太子になりますが、この天皇は即位前の名前が伝わってなく、もしかしたら〇〇大兄皇子と名乗っていたのかもしれませんが。敏達天皇の皇太子であった用明天皇はただの大兄皇子と伝わっていますが、恐らくこちらでも△△大兄皇子と名乗っていたのだと思います。用明天皇の後、敏達天皇の子押坂彦人大兄皇子が継ぐ予定がドタバタの棚ぼた式で崇峻天皇が即位し、推古天皇と続きます。推古天皇の皇太子は厩戸皇子といわれていますが、さてどうなのでしょう。その厩戸皇子の子が山背大兄皇子で、舒明天皇と皇位を争い敗れています。舒明天皇の子古人大兄皇子は皇極天皇の皇太子でしたが、乙巳の変で蘇我氏宗家が滅亡したため皇太子を辞め、その代わりに皇太子となったのが中大兄皇子だったと思います。したがって乙巳の変の時は中大兄皇子を名乗らず。葛城皇子と名乗っていたというのが史実だったのではと考えます。(本会執行理事 馬原浩一)